

ベルギーの移民教育政策の現状と学校適応
Education Policies for Immigrants and School Adaptations of Second Generation Migrants in Belgium

見原礼子 (長崎大学)
MIHARA, Reiko (Nagasaki University)

キーワード：移民、公教育、イスラーム学校、ヒズメット運動

本発表ではまず、ベルギーにおける移民の子どもをめぐる教育の現状と課題を主に中等教育以降に分岐する進路の観点から概説したうえで、ムスリム移民が主体的に設立した学校の目的や特徴を考察する。これにより、ムスリム移民たちによる学校適応のありかたの一端を明らかにすることを目的とする。

ベルギーにおいては、明確な「移民」の公式な定義があるわけではない。「外国に起源を有する者 (population d'origine étrangère)」や「外国人 (population étrangère)」などいくつかの表記が混在し、しばしば曖昧な定義のまま用いられてきたのが実情である。本報告では、ルーヴァン・カトリック大学社会・人口統計学研究所の整理に基づき、ベルギー国内居住者のうち、出生時においてベルギー国籍を有していた者以外を「移民」(≡「外国に起源を有する者」)と呼ぶ(UCL/DEMO & Centre pour l'égalité des chances et la lutte contre le racisme, 2014: 134)。2010年のデータによれば、ベルギーにおける移民の数は約189万3千人で、全人口の約18%を占める。出生時の国籍別で最も多いのはモロッコ国籍保持者で約28万人、次いでイタリア、フランス、オランダと続き、5番目がトルコ国籍保持者で約14万5千人となっている(UCL/DEMO & Centre pour l'égalité des chances et la lutte contre le racisme, 2014: 139)。

ベルギーは1970年以降、連邦制を導入しており、教育、文化、スポーツ、福祉など市民生活にかかわるソフト面の政策は「フランデレン共同体」「フランス語共同体」「ドイツ語共同体」の3共同体が担当している。公教育分野における権限がすべて共同体に移されたのは1988-1989年の改革時においてであった。それ以降は共同体が各々の教育省および関連組織を置き、各共同体の管轄下にある学校はそれぞれオランダ語、フランス語、ドイツ語で教授する。現時点で入手可能な最新の2013-2014年度のデータに基づく、フランデレン共同体で初等学校(全6学年)に通う生徒の合計は約40万人、フランス語共同体では約31万4千人、ドイツ語共同体では約4千800人であった。

共同体によって異なる教育政策や教育言語を展開するベルギーではあるが、学校教育構造自体は類似点も多い。いずれも初等学校は6年間であり、定められた学習到達度に達していれば初等教育修了証明が発行される。これにより、初等学校を卒業し、中等学校に進む資格を得ることになる。

中等学校は基本的に6年間であり、日本の中学校と高等学校にあたる。進学後の2年間はコース別に振り分けられることなく全員が共通のカリキュラムのもとで学ぶが、3年次からは進路別に分岐することになる。具体的には、高等教育に進むことを想定した総合コース、就職または高等教育進学のため両方が想定されている技術コース、基本的に就職が想定されている職業コース、芸術的な能力(美術、音楽など)の習得に力点を置いたカリキュラムが編成されている芸術コースの4コースである。

2003年から開始された「ヨーロッパにおける移民二世代の社会統合に関する国際比較研究(TIES プロジェクト)」においては、ベルギーのブリュッセル及びアントワープの2都市において、ネイティブ生徒(ブリュッセル N=301、アントワープ N=257)、トルコ系移民二世代生徒(ブリュッセル N=358、アントワープ N=244)、モロッコ系移民二世代生徒(ブリュッセル N=311、アントワープ N=246)の3グループの進路を比較した結果が明らかにされている。

これによると、ネイティブの場合、中等教育3年次の段階で両2都市とも約半数が総合コースに進学している。その一方で、アントワープにおける総合コースへの進学率は、トルコ系移民二世代の約22%、モロッコ系移民二世代の約16%であり、ネイティブとの割合の差は倍以上の開きが生じている。ただしブリュッセルの場合、その割合の差はアントワープほど大きくない(Baysu et.al. 2010: 19)。

しかし、さらに進んで5年次における同様の生徒の割合を見ると、一定数の割合の生徒が総合コースから技術・職業コースに移動している。ネイティブにも同様の傾向が見られるが、移動の割合は移民の背景を有する生徒のほうが高い(Baysu et.al. 2010: 19)。

退学率にも大きな差が表れている。アントワープにおけるトルコ系移民第二世代とネイティブを比較した場合、中等教育 3 年次開始の段階でネイティブは約 4%が退学しているのに対し、トルコ系第二世代は約 10%とすでに倍以上の開きが生じている (Baysu et.al. 2010: 6)。中等教育 5 年次開始の段階では、その差はさらに開き、ネイティブの約 12%に対してトルコ系第二世代は約 34%に上っている。結果的に高等教育へ進む割合は、ネイティブの 69%に対してトルコ系第二世代は 37%にとどまっている (Baysu et.al. 2010: 6)。

こうした現状に対して、移民の子どもを対象とした様々な教育政策が展開されてきたが、移民の側からも興味深いイニシアティブが生まれている。そのひとつが、ヒズメット運動の拡大と教育への浸透である。ヒズメット (Hizmet) とはトルコ語でイスラーム的価値観に啓発された社会的奉仕活動を意味し、トルコ人イスラーム学者・思想家・教育活動家であるフェトフッラー・ギュレン (Fethullah Gülen: 1941-) の支持者らによって展開されている。ギュレンは様々な社会奉仕活動の重要性を説いたが、最も力点を置いているものの一つが教育であった。その独自性として挙げられるのが、これまでのイスラーム思想家の多くがイスラーム教育の重要性を唱えてきたのに対し、ギュレンは近代的な科学的知識獲得の重要性を主張した点である。それはすなわち、「イスラーム的価値に基づき教授された知識はそれ自体イスラーム的価値になる」 (Agai, 2002: 40-41) という信念に基づいたものであった。この考え方に基づき、彼は 1978 年にトルコで初の大学受験を目的とした学習支援センター (塾) を創設した。

次第にギュレンの考え方が広まるにつれて支持者は増加していき、こうした支持者らは特にギュレンが強調した教育の重要性に鑑み、多くの教育施設を設立していった。Ihsan (2010: 118) によれば、現在ではカザフスタン、タンザニア、イギリス、オーストラリアなど世界 110 カ国以上で初等・中等学校、カレッジ、大学など 1000 校以上が運営されている。欧州におけるヒズメット運動の展開は 1980 年代以降であり (Landman, 1992: 138)、存在感を高めていくのは 1990 年代に入ってからである。

ヒズメット運動系の学校がベルギーの公教育へと進出したのは、フランデレン共同体において 2003 年、フランス語共同体において 2005 年のことであり、現在では 7 校の初等・中等学校が公費を受けた私立学校として運営されている。公立学校が主要な義務教育の形態として位置づけられているドイツやフランスと異なり、ベルギーの義務教育においては私立学校が全体に占める割合が大きく、公立学校と同様か、それ以上の規模の生徒数を有している。私立学校は公立学校と同額の公費を受けることができるため、子どもがどちらの形態の学校に通っても、基本的に親の教育費負担に違いはない。私立学校の大半はカトリック系学校であるが、少数ながらプロテスタント系学校やイスラーム学校も存在する。ヒズメット運動系の学校はそうした「宗教系」の学校網ではなく、「非宗教系」の学校網に属している。

本報告では、筆者がこれらのヒズメット運動系学校にて実施したフィールド調査および校長や教職員へのインタビューに基づき、学校の概要、教育目標・体制とその特徴について考察していく。そこから、ムスリム移民の学校適応をめぐる近年の新たな様態を浮かび上がらせる。

参考文献

Agai, B., 2002, "Fethullah Gülen and His Movement's Islamic Ethic of Education", *Critique: Critical Middle Eastern Studies*, 11(1), pp27-47.

Baysu, G., et.al., 2010, *Segregatie en ongelijke onderwijskansen: schoolloopbanen van Turkse en Marokkaanse Belgen: Resultaten van het 2e generatie (TIES) onderzoek. Rapport voor de Stad Antwerpen*, K.U.Leuven, Instituut voor sociaal en politiek opinieonderzoek.

Ihsan, Y., 2010, "Civil Society and Islamic NGOs in Secular Turkey and Their Nationwide and Global Initiatives: The Case of the Gülen Movement", 『国際地域学研究』第 13 号, pp115-130.

Landman N., 1992, *Van Mat Tot Minaret*, VU Uitgeverij.

Université Catholique de Louvain, Centre de recherche en démographie et sociétés (DEMO) & Centre pour l'égalité des chances et la lutte contre le racisme, 2014, *Rapport statistique et démographique 2013: Migrations et populations issues de l'immigration en Belgique*, Université Catholique de Louvain.